

# TSEP第56回経済政策勉強会

## ベーシックインカム

課題図書：「AI時代の新・ベーシックインカム論」（井上智洋著）

## ①個人的にもともとベーシックインカム（以下、B I）に興味があった

- 前職の経産省時代、社会保障の一つの形として興味あり
- Tsep立ち上げ初期（2010年）にも一度テーマとして取り上げた

## ②機運が盛り上がってる感じがする

- 海外で、実験が行われている
- ホリエモン、ひろゆきなどがB Iを支持

## ③ホリエモンの発言に触発されて

- とあるテレビ番組で、ホリエモンが言っていることが面白いことを言っていた
  - “A I・ロボットの時代では、人は労働から解放され、“遊び”が仕事になる”
  - “これは中世のルネサンス時代の再来。奴隷がA I・ロボットに置き換わるだけ”
  - “どう遊ぶかを考えるのが、重要になる”
- A I時代の人間の存在意義まで踏み込んで議論できると面白そうだ、と思った

# 著者はちょっと変わった人のようです（笑）



<twitterの自己紹介より>  
駒澤大学経済学部の教員/早稲田大学非常  
勤講師/慶應SFC研究所研究員/ナチュラル  
ボーン飲んだくれ/大学クビになったらEXILEに入  
ろうと思う/

思想：リベラルリバタリアニズム

# 章立てと各章のポイント

## 第1章 ベーシックインカム入門

- ベーシックインカムの定義
- 歴史と近年の動き

## 第2章 財源論と制度設計

- 財源は2つ：税金（所得税、相続税、・・・） + 貨幣発行益
- 固定BI + 変動BIで考えるべき

## 第3章 貨幣制度改革とベーシックインカム

- 経済の成熟化により銀行中心の金融システムは限界に
- 政府中心の貨幣制度へと先祖帰りし、家計が金融システムの中心になるべき

## 第4章 AI時代になぜベーシックインカムが必要なのか？

- 純粹機械化経済では、9割の人が失業するおそれ
- BIがないと、超貧困、超デフレ社会になる

## 第5章 政治経済思想とベーシックインカム

- リベラル・リバタリアニズムの政治思想と近い
- 労働から解放され、遊びと文化に興じる社会を！

# 第1章 ベーシックインカム入門

## ベーシックインカムの定義、メリットと誤解

ベーシックインカムとは・・・

**「収入の水準に寄らずすべての人々に無条件に、最低限の生活を送るのに必要なお金を一律に給付する制度」**

※一人当たり5～15万円／月程度（著者は7万円／月がちょうど良いとしている）

### メリット

- ・都市一極集中の緩和
- ・格差縮小
- ・DVの減少
- ・育休期間が長くなる
- ・メンタルヘルスの改善
- ・やりたいことを追求できる（自由の拡大）

### 誤解

- ・労働意欲の低下
  - －最低金額なのでそんなことはない
- ・墮落する
  - －その懸念も限定的

※生活保護より良い面もある

－生活保護：捕捉率が低い（2割）、審査に行政コストがかかる

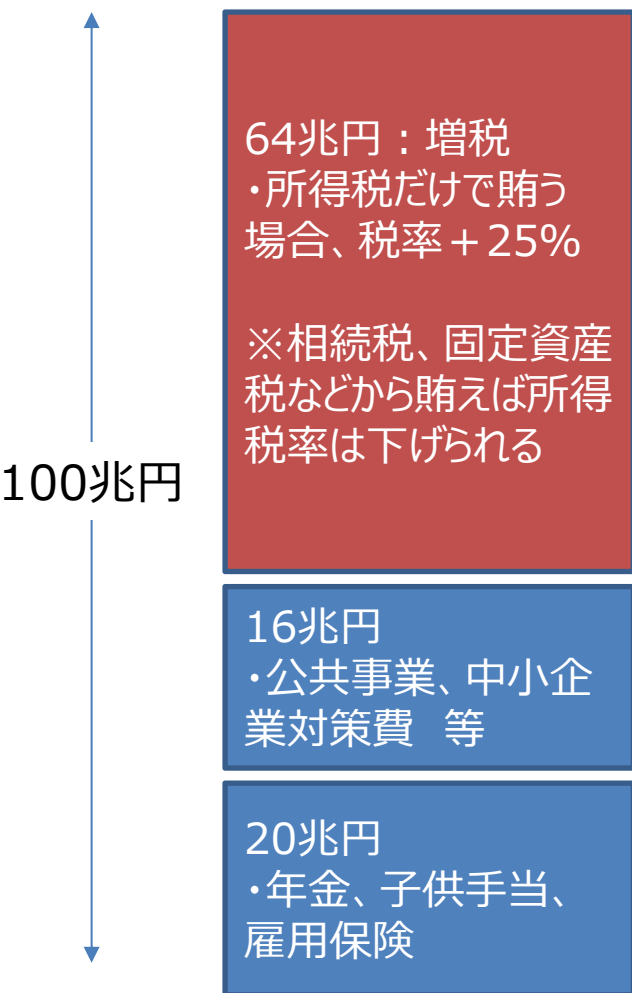
## 起源と近年の試み

- 起源は経済学者から
  - 1924年 クリフォードダグラス「社会信用論」  
貨幣発行益を財源にし、月5ポンド給付
  - 1962年 ミルトンフリードマン「負の所得税」  
本質的にB Iと同じことを提唱  
ex. 税額から年間84万円の給付額差し引いた額を納税する  
(税額が84万円未満だと、納税額がマイナスとなる)
- 海外では実験や試験導入が進む
  - インド：2018年にいくつかの州で導入
  - フィンランド：失業者2000人を対象に実験中
  - オランダ：アムステルダム等の都市で試験導入
  - アメリカ：社会実験中
- 日本でも機運が高まり
  - 10年前くらいから機運が高まり
    - ホリエモン、山崎元（経済評論家）、同志社大・山森教授、・・・
  - 直近、AIの台頭を背景に、ブーム

## 第2章 財源論と制度設計

### 必要となる財源、負の所得税との関係

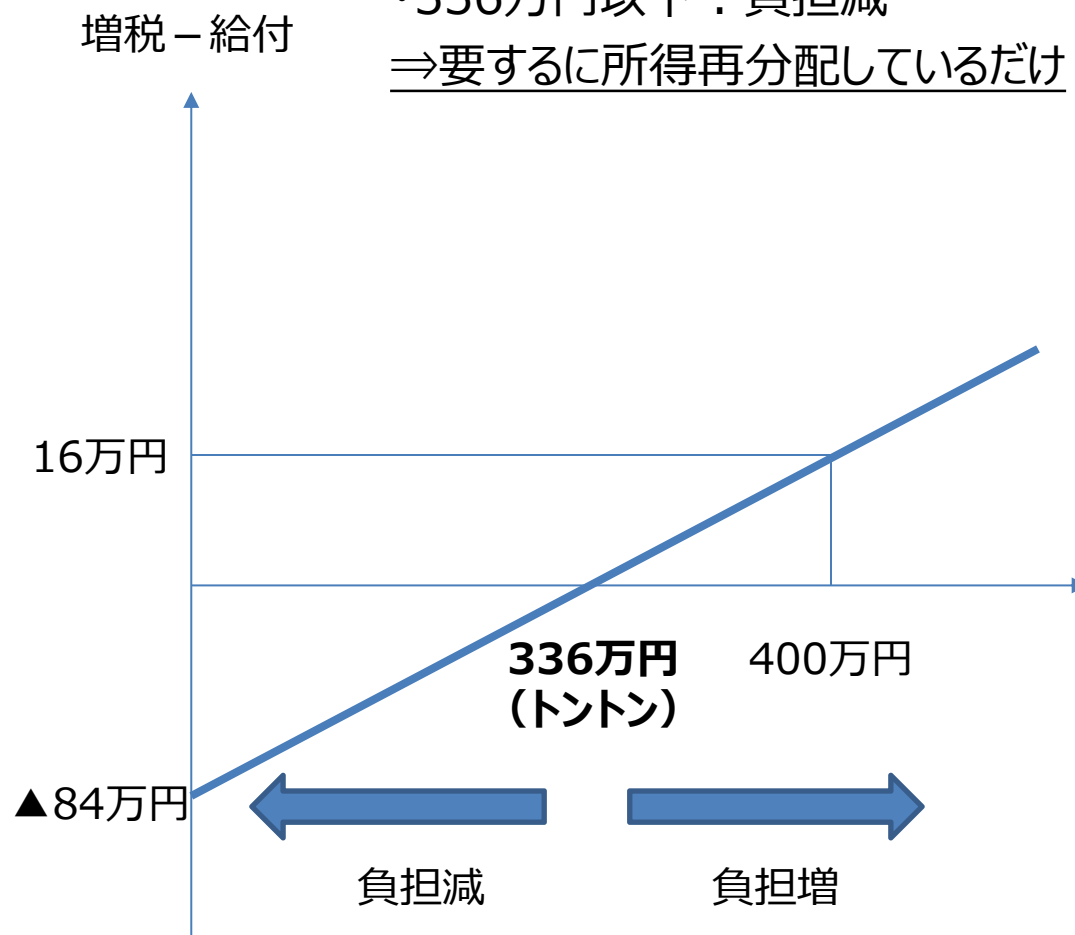
月額7万円をB I 給付する場合、  
64兆円の追加財源が必要



負の所得税でみると・・

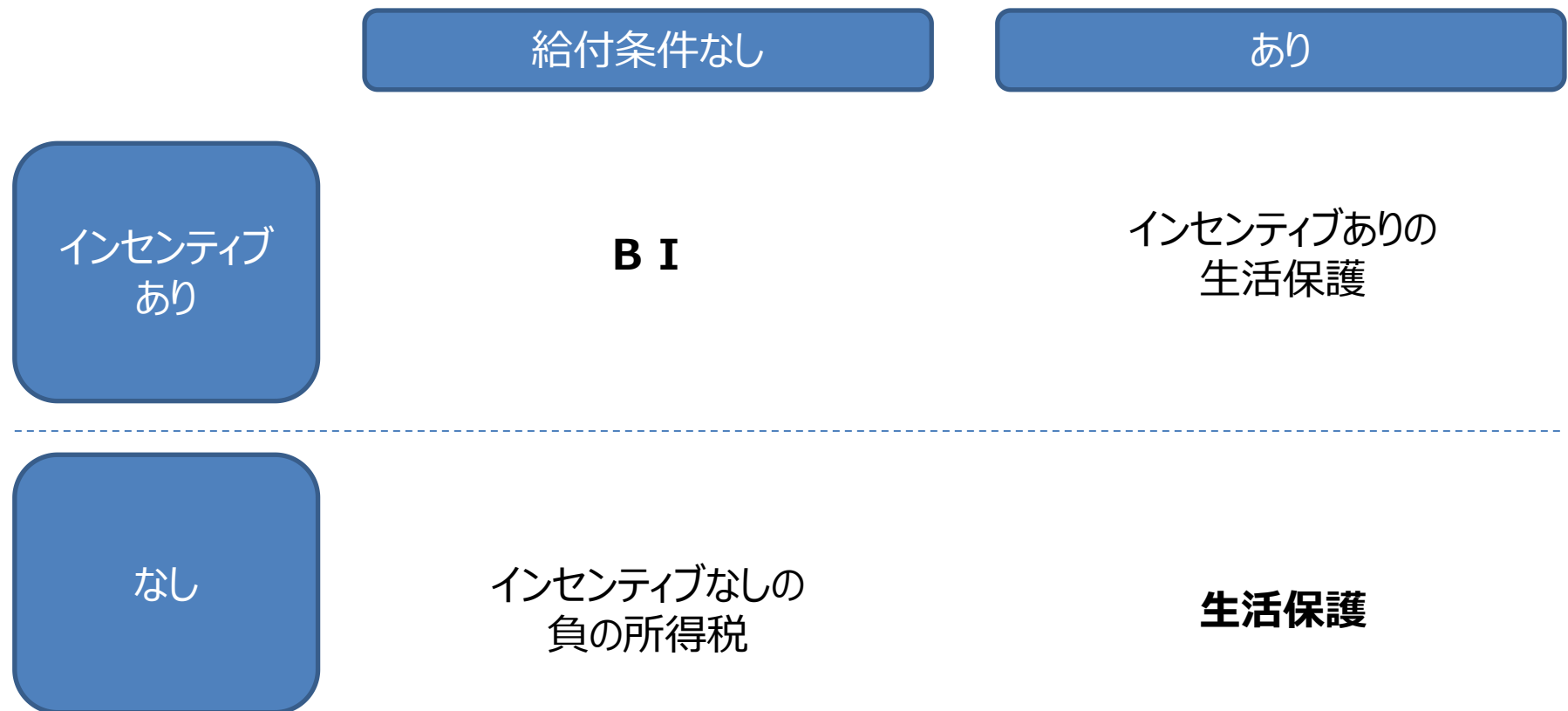
- ・年収336万円以上：負担増
- ・336万円以下：負担減

⇒要するに所得再分配しているだけ



## B I は生活保護より良い

- 生活保護はほぼインセンティブがない（働いても収入はほぼ変わらない⇒労働意欲をそぐ）
- B I はインセンティブがある。働けば働くだけ、所得が増えるので、労働意欲はそがれない





# 固定 B I に加え、変動 B I も考えるべき

## 固定 B I

- ・財源：税金
- ・所得再分配
  - 高所得者・資産家から税金をとり B I の財源とする

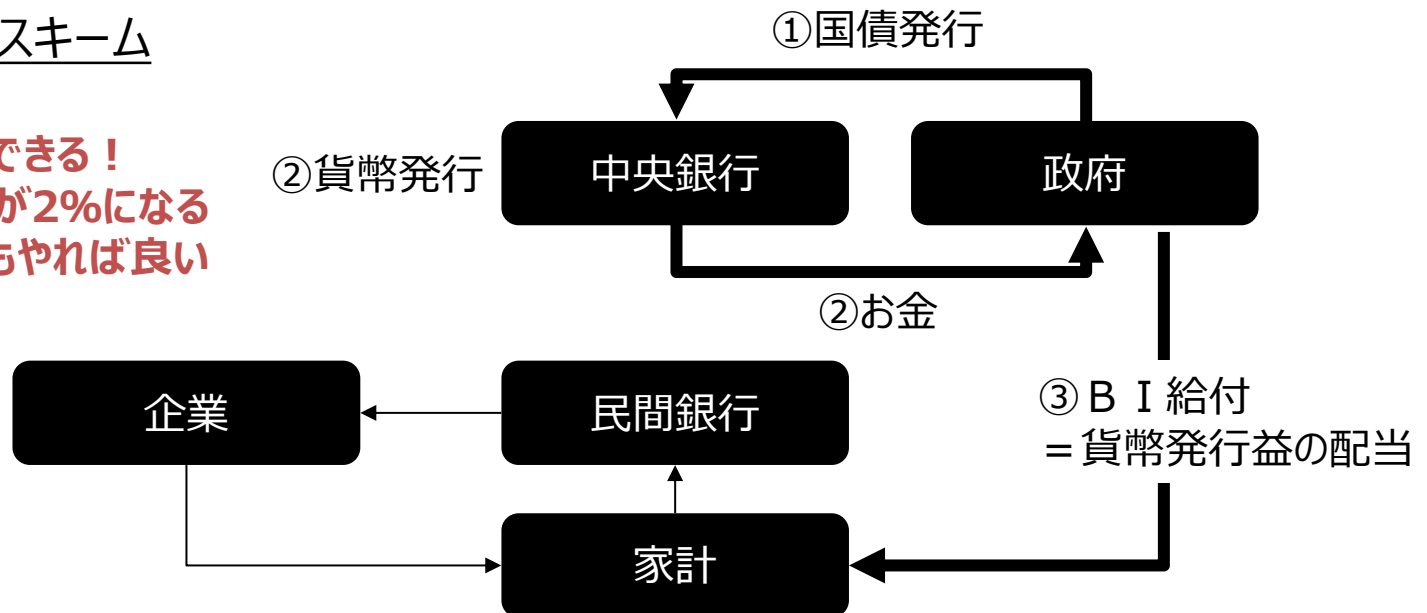
+

## 変動 B I

- ・財源：貨幣発行益（政府紙幣）
  - 要はヘリコプターマネー
  - ※1万円の発行コストは20円  
⇒貨幣発行益は9980円
- ・インフレ率、失業率に応じて給付

## 変動 B I のスキーム

- ・デフレならできる！
- ・インフレ率が2%になるまで日本もやれば良い



# 第3章 貨幣制度改革とベーシックインカム

- 歴史的には銀行中心の管理通貨制度へと以降したが、経済の成熟化に伴い制度疲労
- 政府中心の貨幣制度へと先祖帰りし、家計がお金の流れの中心に立つべき

政府中心の貨幣制度  
(近代以前)



銀行中心の貨幣制度  
(近代以降)

- ・金属貨幣レジーム
- ・政府紙幣レジーム

- ・管理通貨制度：
  - －信用創造でマネーストックが増
  - －デフレを起こしにくい

貨幣発行益の分配 (変動 B I)



消費需要増→投資需要増



経済成長

問題点：経済が成熟するとマネーストックがコントロールできない

- ・企業の投資需要減
- ・企業の借り入れ減
- ・マネーストック増えない
- ・株や土地に投機され、バブル誘発



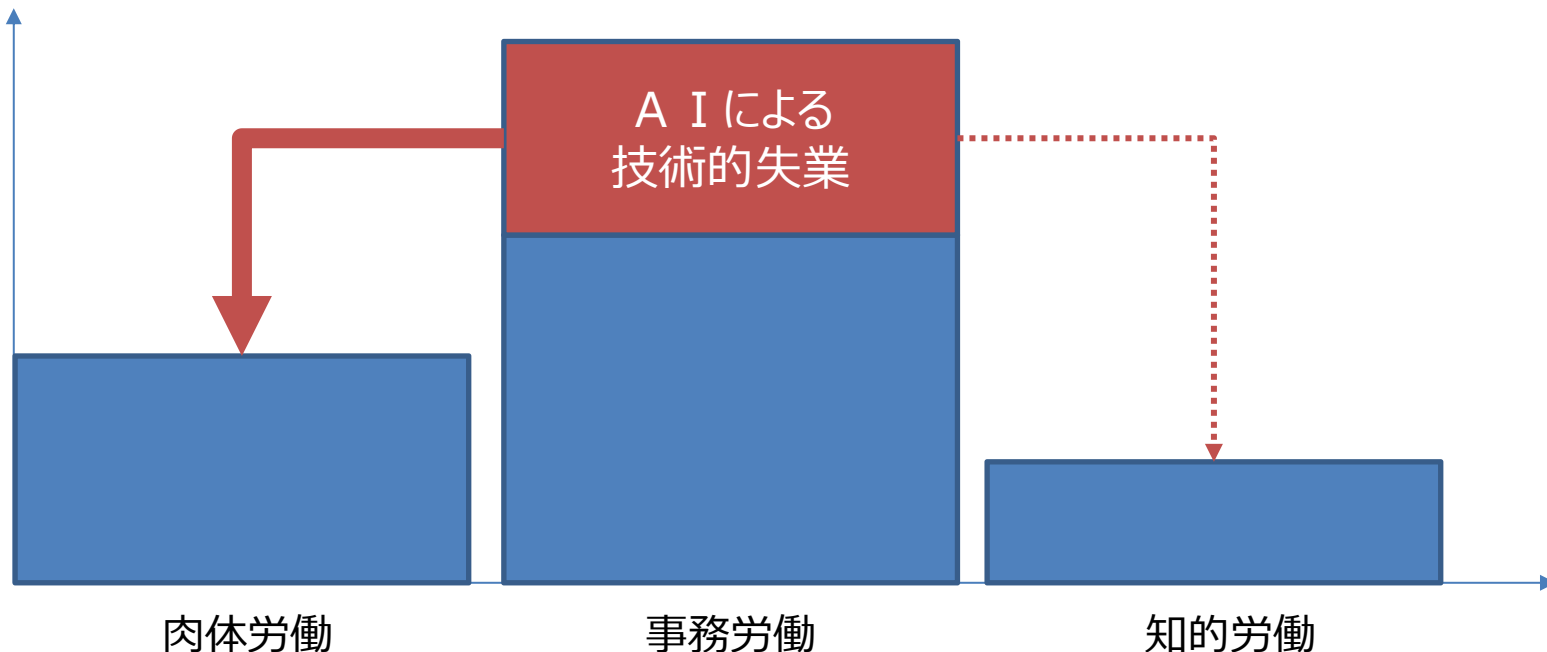
中央銀行→家計→民間銀行→企業



中央銀行→民間銀行→企業→家計

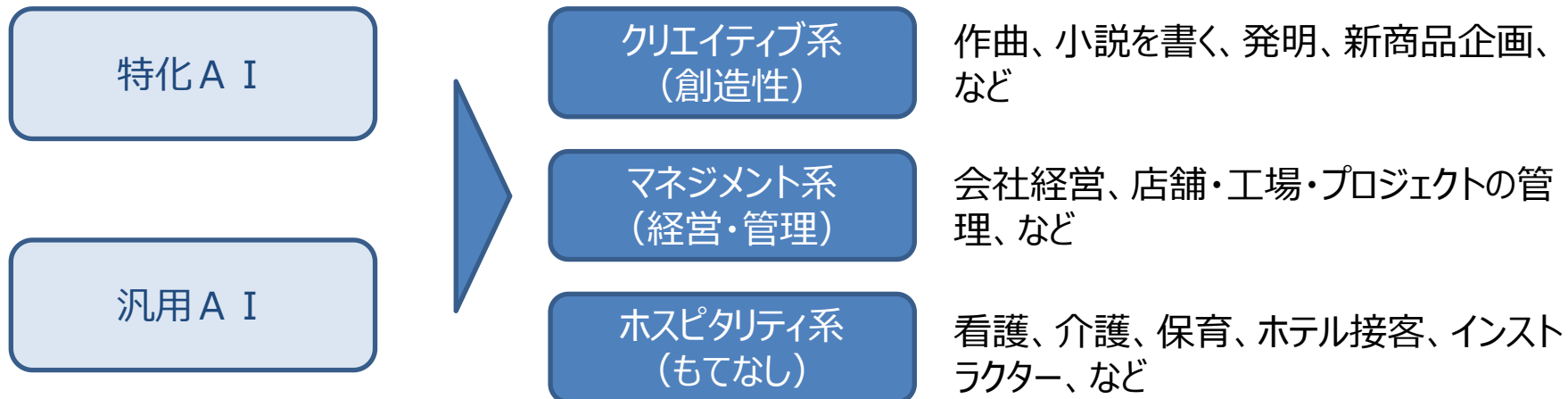
## 第4章 A I 時代になぜ B I が必要なのか？

- 技術的失業により失業率は上がるのか、上がらないのか？ どちらの見方もある
  - 上がる：技術により奪われる仕事 > 技術により新たに生まれる仕事
  - 上がらない：技術により奪われる仕事 = 新たに生まれる仕事
- 著者の立場は「上がる」
  - 例：旅行代理店の雇用者数 > 旅行サイトの運営人員
- A I により失業する事務労働者の多くは、肉体労働に移動
- 肉体労働も、ロボット技術の進化により、2030年以降は減少していく可能性



# 近未来、労働の1割（CMH）しか残らなくなる

## 人間に残る仕事は3タイプ（労働の1割）

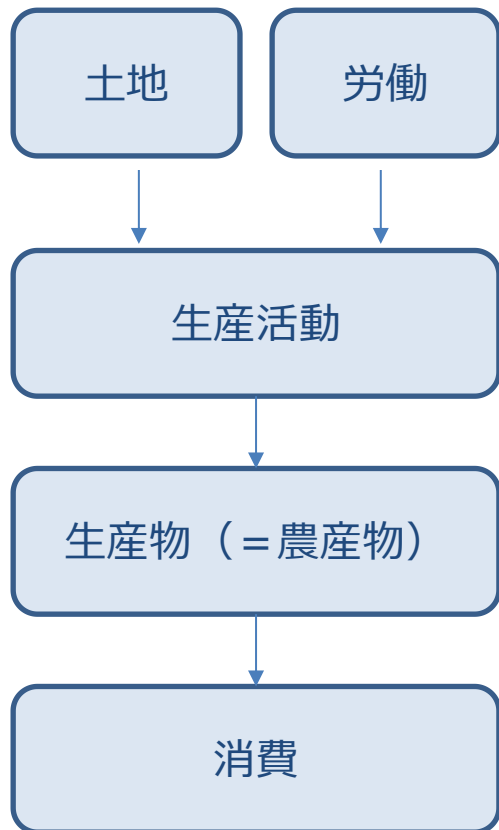


## 「脱労働社会」の到来

- ・資本分配率は100%に近づく
- ・資本家だけが富み、労働者の所得が激減
- ・貧困層が激増→生活保護は破たん

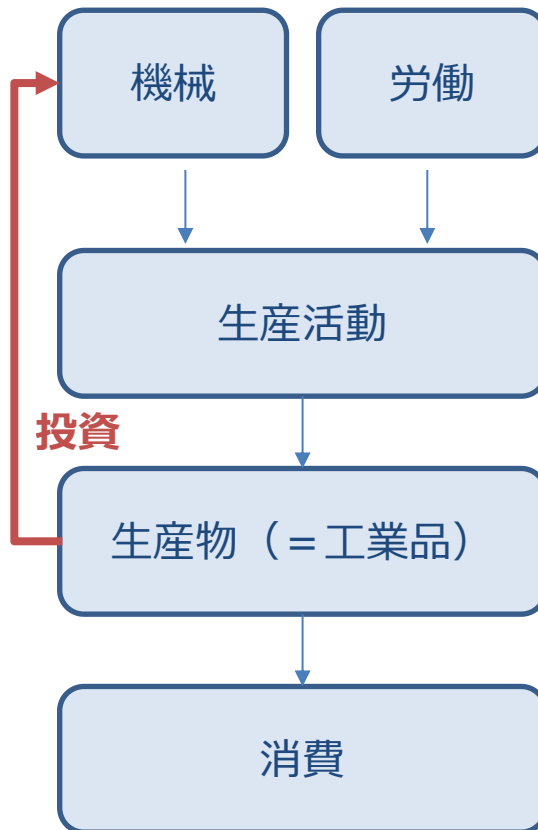
# 純粋機械化経済では B I が不可欠に

## 農業経済



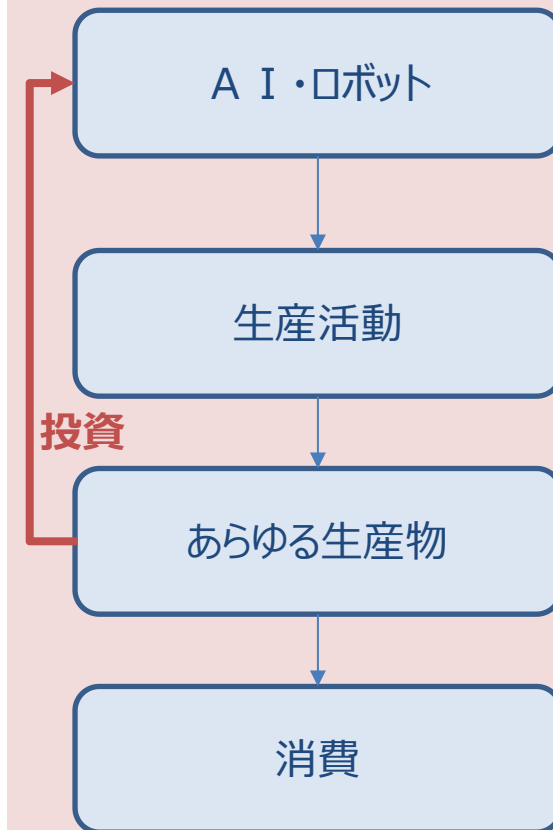
- ・マルサスの罠  
(所得の伸び悩み)

## 機械化経済 (産業革命)



- ・一人当たり所得の急増
- ・資本家の台頭、格差

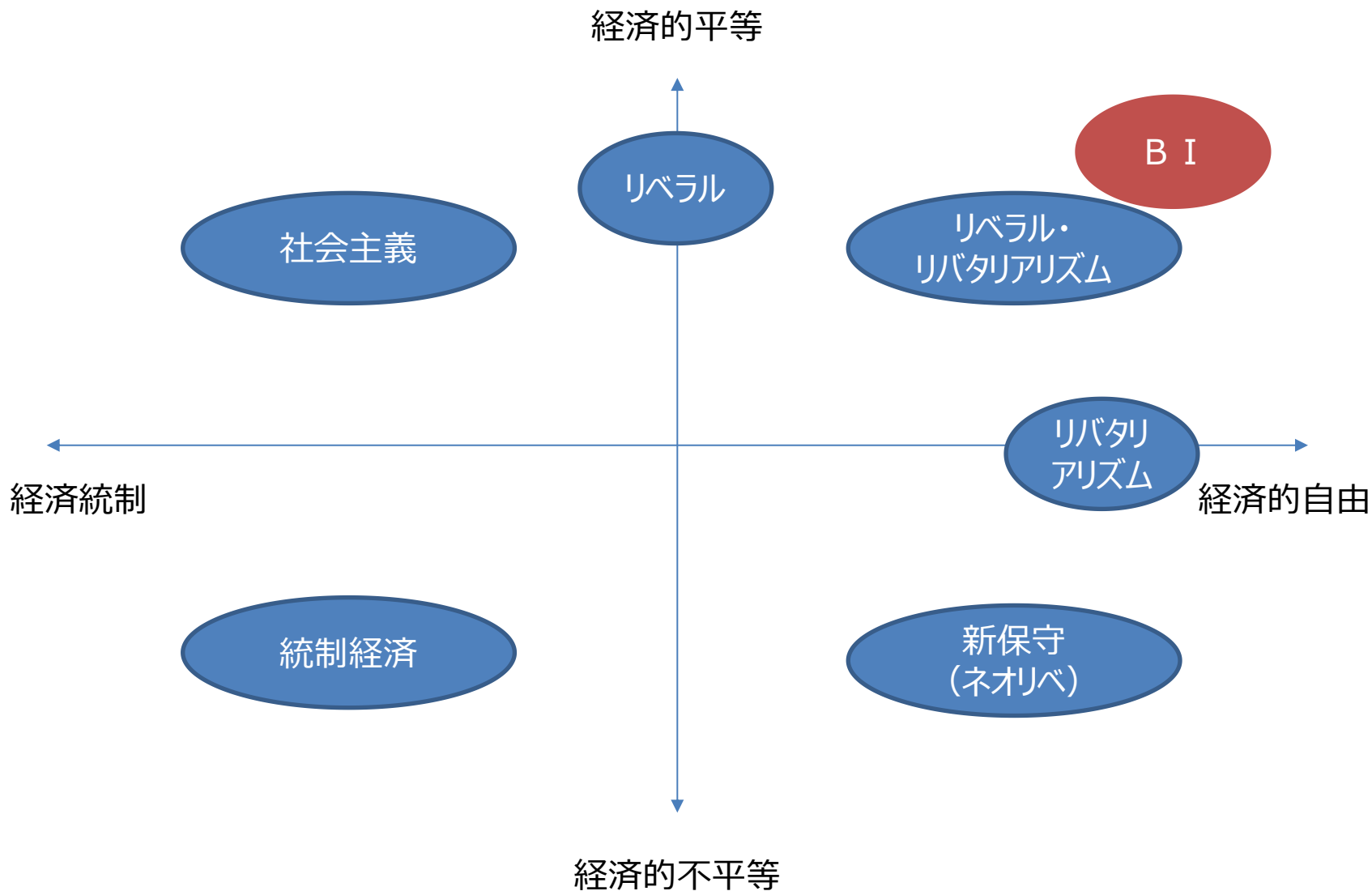
## 純粋機械化経済 (A I・ロボット革命)



- B I がないと、
- ・超格差社会
- ・超デフレ
- 供給 >> 需要

# 第5章 政治経済思想とベーシックインカム

## 政治思想におけるB I のポジショニング



## 日本では思想の転換が必要

- 儒教的思想が障壁となる
  - コミュニティに従う
  - 義務・拘束を好む
  - 「働かざるもの食うべからず」
- “労働が生きがい”の価値感に縛られている（社畜根性）
  - 近代固有のいびつな価値観
  - 昔は労働 = 奴隷



- 自由な社会への脱皮が必要
  - 労働から解放されれば、文化、政治が発達する！

## これまでの福祉政策とも異なる

- ワークフェア（ブレア）とも異なる
  - ワークフェア：労働へと至る福祉。コミュニティや就労を重視
  - コミュニティに関わるのが苦手な弱者を無視
- 参加所得とも異なる
  - 社会参加意欲が欠如した人を無視



- コミュ障も、怠け者も救済される社会福祉であるべきで、その実現手段がB I